

週目点

5/30
2005

川本 裕子 早稲田大学教授



▶大手生保の決算発表

外資系が躍進、改革迫る

大手生命保険各社が三十日に二〇〇五年三ヶ月決算を発表する。一部の社は数年ぶりに個人保険の配当を増額したり、企業年金の配当を再開したりすると報じられている。大手生保が一時期の危機的な状況を脱し、攻めの姿勢を打ち出したと評価できる。

しかし、大手生保の経営を巡る構造的な問題は解決されていない。運用面での逆ザヤは解消の見込みが立たないうえ、大量の営業職員を抱えた高コスト体質も重荷だ。

一方、医療・介護など生前に給付金を支払う第三分野では、外資系の健闘が際立つ。通信販売や商品性のわかりやすさを訴えるなど、消費者ニーズを的確にとらえている。

外資系の躍進は成熟市場といわれる日本でも、やりようによっては開拓の余地があることを示す。国内大手には第三分野は採算が合わないとの見方もあるが、保険の銀行窓販の全面解禁などスケジュールも踏まえてビジネスモデルを見直していくべきだろう。

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。